

技能の見える化に貢献

アキユイティ：画像システムに注目集まる

溶接技能伝承にIT・デジタル技術が活用されるなか、アキユイティ(東京・渋谷区、佐藤眞平社長)が発売するモーションキャプチャーカメラシステム「OptiTrack」が技能伝承を支える技術として注目されている。

4月に日立建機(東京・台東区)は溶接士の作業を測定し、溶接作業を「見える化」する技術に応用した訓練システムの実証実験を開発した。「見える化」された熟練技能者と若手技能者の動きを定量的なデータで比較し、溶接技能伝承に活用することを目指す。

その中で、「OptiTrack」は毎秒200フレームレートの高精度で溶接士の溶接の動きを捉えることができる。溶接で言えるのは、動きだけではなく身体



佐藤社長

「同システムはほとんどの動きがデータとして見える化できる。溶接で言えるのは、動きだけではなく身体

トーチの動きなどを撮影、計測、解析。動きをデータ化することで、溶接技能の「見える化」に貢献している。

佐藤社長は「大手の製造業だけではなく、町工場のような中小企業でも熟練技能者の高齢化を懸念し、後継者育成のために技能の見える化を活用した教育環境の構築を目指し、同システムの導入を検討したいというケースが増加している。中小企業ではデジタル技術に馴染みがある若い世代の経営者が溶接技能の見える化に興味があるようだ」と語る。

一方で、佐藤社長は「とてあえずデジタル技術で技能を『見える化』すれば良いという安易な導入計画には警鐘を鳴らす。

全体の動きや視線、スパッタの飛び方も見える化できる。しかし、技能伝承の教育に活用するとなつた場合、熟

練技能者の見える化しただけの動きを教えたなら、かえって効率が悪くなる。本当に計測する必要がある動きの範囲を絞るという作業も重要」

今後について佐藤社長は「モーションキャプチャーを使ったデータ化といえはスポーツの分析やCG映像の作

成に使われるイメージがあるが、当社ではユーザーの8割がものづくりに携わる企業だ。同システムをさらに技能伝承や生産性向上に活用するため、計測したデータを使いやすくするソフトウェアの開発にも注力し、日本のものづくりに貢献したい」と抱負を語った。